

A
J
U

みずほ

2020年11月17日

NP0 法人高次脳機能障害友の会みずほ発行
会報 第82号



〒460-0021

名古屋市中区平和 2-3-10 仙田ビル

電話/FAX 052-253-6422

メールアドレス npo-mizuho@miracle.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.npo-mizuho.com>



会員 Y.T さんの
作品

- 目次** ■ICT技術の今後に期待したい 高次脳機能障害リハビリテーション Web 講習会 P2
■家族相談員の研修会 P3~6 ■家族相談に携わって P7
■直面する性教育を考える~Zoom 学習会~ P8~11 ■キッズプラス P12
■働く仲間の集い P13 ■企画グループ P14~15 ■若い失語症者のつどい P16~18
■家族体験記 P19~21 ■ワークハウスみかんやま P22~23 ■お知らせ P24

ICT 技術の今後に期待したい

NPO 法人高次脳機能障害友の会みずほ

理事長 吉川 雅博

毎日のニュースで新型コロナウイルスの全国の感染者数を報じていて、東京ではいまだに1日当たり3桁の感染者となっていることも少なくありません。これから冬にかけてインフルエンザの感染者も増えてくると予想され、当分の間感染予防について気を抜くことができません。また、世界規模での失業者の増加など、経済活性化の問題もあり、まだまだ新型コロナウイルスに翻弄される状況は続きそうです。

コロナ禍の生活は予想以上に不便です。他人とのコミュニケーションをできるだけ減らす必要があります。しかし、人類にとってコミュニケーションは必要不可欠です。感染対策を怠らず、これまで以上に他人とのコミュニケーションを楽しむことが大切だと思います。そうはいってもコロナ禍での生活の仕方もいろいろと工夫されてきて、以前の生活に少しずつ戻れる兆しが見えてきたように感じます。

安倍首相が退陣し、内閣総理大臣が菅首相に代わり、デジタル庁を創設することが報道されました。ICT (Information and Communication Technology) の略で、通信技術を活用したコミュニケーション) の技術は、コロナ禍において強力な武器になることは間違いありません。ICT の技術を使い、コミュニケーションを楽しむことでストレスのない日常に戻れることを願ってやみません。



高次脳機能障害リハビリテーション Web 講習会開催

テーマ **親亡き前**から始める 地域生活のススメ

～支えあれば憂いなし～

講師／戸枝 陽基氏 社会福祉法人むそう理事長、日本福祉大学客員教授

配信期間 2021 年 1 月 25 (月) ～2 月 7 日 (日)

※詳細はこの会報内の案内チラシをご覧ください。

家族相談員の研修会

2019年度から愛知高次脳機能障害協議会が県の委託を受けて、「高次脳機能障害者とその家族」を対象とした家族相談会に携わっています。愛知高次脳機能障害協議会の3団体が月2回、相談会場をずらしながら行っています。相談会場は名古屋リハ・みずほ事務所のほかに、尾張・知多地域(半田市・春日井市)、三河地域(刈谷市・岡崎市)にそれぞれ設けました。



昨年度は相談会の開催に当たり、名古屋リハ高次脳支援課佐野課長を講師に招き、家族相談員として場に臨むための研修会を行いました。

今年度は新型コロナの影響もあってなかなか研修会を開くことができませんでした。また、非常事態宣言を受け、予定していた相談会もいくつか中止せざるを得ない状況が続きました。しかし、非常事態宣言の解除を受け、講師にNPO法人高次脳機能障害相談支援「笑い太鼓」コーディネーター加藤俊宏氏をお招きし、7月1日(水)、ようやく研修会を開くことができました。



この研修会では、加藤氏ご自身が考える家族相談の在り方について話してくださいました。

「私の考える家族の相談・・・」

ピアカウンセリングの相談員といっても、専門的知識や専門的相談援助技術を持っているわけではない。大切なカウンセリングの資源は、同じ悩みを共有する仲間ということであり、唯一の強みは相談者と同じような体験や経験をしてきたという事。

このことを踏まえて・・・

「カウンセリング」という言葉に何かアドバイスをと思いがちだが、相談者は自分だけでは解決できない問題の解決の手がかりが欲しかったり整理がしたかったり、困りごとを話しに来るのであって、相談員の体験を聞きに来るわけではない。

しかし、相談員自身自分の体験を話したいという心理が働いてしまうので気をつけなければならないし、他で見聞きした似たケースの例をその当事者の承諾なしに話すことで安

易に相談者を安心させることがあってもならない。相談員が相談者に自分の体験を話すのはお互いの信頼関係ができてから。一度きりの顔合わせではなく長期にわたって話を引き出し関わっている中でそういった機会は訪れる。

とにかく相手の話を聴くことが大切であること。その場で解決をしようとするのではなく、話の内容やその相談者が相談先(地域の基幹相談センターの相談支援専門員・支援コーディネーター)を持っているかどうかによって、先につないでいくことが大切である。また一方で相談の内容によっては、課題として持ち帰り改めて連絡をするといった対応の仕方が大切である。



そして、気をつけなければならないこととして、相談者の中にはいろいろな場を渡り歩く人もいて、そういう相談者はあちらこちらでいろいろなアドバイスをされていることがある。支援においては、支援に関わる人が皆で同じ方向で同じことを言うことが大切であるのに、これは混乱を招くだけである。

注意 ダブルカウンセリングの危険性

ダブルカウンセリングを防止するためにも本人・家族の了解のもと支援者あるいは支援コーディネーターにつなぐ必要がある。

当事者家族による当事者家族のための相談は、あくまでも支援難民を支援者や支援コー



ディネーターにつなぐことであり、家族相談員は家族の立場に立った相談相手であり、話し相手として当事者家族の精神的サポートができればいいのではないかな。



家族相談会の会場では、今回のような研修会を受けた相談員が2人1組で対応しています。ただ、限られた時間の中で行うため、人数によっては相談者の同意のもと、対面ではなく、相談者同士が情報を交換する場になることもあります。

相談員は今まで何人もの相談を受けてきたベテランの方ももちろんいますが、新たに相談員となった者も少なくありません。医療関係でも法律関係でもない相談員に一体何ができるのか、相談に行って何が変わるのか疑問を持たれる方もいらっしゃるかもしれません。

けれど、同じ当事者家族として何か自分たちにできることはないか、そんな思いで皆が家族相談会に携わっています。

～家族相談員研修会に参加して～

私には知識も経験もなく、自分が体験したことしかわからない。「相談員って、どうすればいいの？」そんなと不安な思いがある中で、研修会に参加しました。

そこで分かったことは、相談員の大きな役割が問題を解決することではなく、精神的にサポートすること。「とにかく悩みや問題を解決して安心してもらう」、そんな思い込みから私は自分の経験や事例を基にお話しして、情報を提供することが重要だと考えていました。しかし、それは大きな間違いであることを学びました。

最悪の場合、親切の押し売りになってしまう
かもしれない。



私達家族相談員は相談者をリードしたりアドバイスをしたりするよりも、寄り添って精神的にサポートしていくために、話を聴く（傾聴）ことが大切であることも学びました。相談者の悩みや不安を丸ごと受け入れ、自らお話していただくことで相談者自身が問題の内容を整理できたり、希望が持てたりすることがあるからです。一方で、相談員は自らの経験や情報・知識から、様々な支援先に繋がられないか相談者と一緒に考えたりすることもできると気付かされました。

私も家族が高次脳機能障害になった当初、不安でいっぱいでした。そんな時家族相談会の扉をたたきました。そこで寄り添っていただき、どんなに励まされたことでしょう。だから今があります。

気付きと学びのある有意義な研修会をありがとうございました。

(佐藤 真)

「家族相談員」をすることになったとき、正直「相談員」と言う肩書は重く、どんな役割を果たしていったらいいのか、分からなくて戸惑うばかりでした。けれど、今回の研修会に参加して、自分の立ち位置が少しつかめたような気がします。家族相談会では、相談員と相談者といった立場ですが、そこでの出会いをきっかけに、やがては一緒に当事者家族として話し合ったり、支え合ったりする仲間の輪を広げていけたらいいなと思いました。

(都留)

～質問コーナーでは～

Q : 「カウンセリング」と「アドバイス」の違いを簡潔に言うとすれば？

A

：「カウンセリング」は、彼らの力を引き出してあげるためのもの。

「決定を邪魔しない」「(自分の)力を発揮する」こと。

「アドバイス」は、解決策を見出すためのもの。

「1 つ、2 つ、チョイスを提示する」「具体的な事を提示する」「頭から反対しない」「本人達を尊重してあげる」「(自分の)力を引き出す」こと。

とても分かりやすく受けとめることができました！
今後、家族相談会で、このことを参考に対応できると
良いと思いました。



Q : 私の相談員の経験が少なくて、支援に繋げる先もよくわからないのですが、どうしたらいいのでしょうか。

A

：家族相談員は専門職ではありません。なので、支援先に繋げるのは役割ではないので心配ないです。繋ぐのは専門職に任せましょう。

相談員の役割は、相談者に寄り添うこと。同じ高次脳機能障害で悩みを抱えている方に共感し、受け入れてあげて下さい。そして、その方の持っている強みを見つけ出してあげましょう。すると今の行き詰った気持ちを受け止めてもらえ、安心していただけることもあります。

1 回で支援を終えなければならないわけではありません。何度も気軽にお越しいただける場と理解していただきましょう。

家族相談員は希望が見えないでいる相談者に共感し、受け止めることが役割なのです。解決を求めることではないのです。

「絶望感や喪失感が募っている相談者に、その方の持っている、また気づいていない強みに気付いてもらうこと」「寄り添って、一緒になって考えたり励ましたりすること」で相談者が少しでも前進できるように後押しをする。

そうして、支えて差し上げることが最大の役割という事がよく理解できました。



家族相談会に携わって

～相談員のつぶやき～



退院した後の在宅となったとき家族はどう対応したらよいのか、そのことを非常に心配され、少しでも勉強したいと相談にみえた当事者家族の方のお話をお聞きました。家族だけで抱え込まないように在宅後は地元の福祉サービス等を利用するようにしたり、近所の方々にも障害がある事を知ってもらうようにしたりする事が大切ではないかとお伝えしました。張りすぎないように、人の手を借りる事もよい方法ではないかと思いました。



初めての相談ということで緊張気味なご夫婦の相談を受けました。今までなかなか相談に出向けなかったとのことで、お困りのこと、お二人のお悩みなどたくさん話していただき、時間が足りないくらいでした。

お話をお聴きするほうが多かったのも、これでよかったのかと思いましたが、少しでも気持ちが楽になっていたらいいな…と願い、見送りました。



相談は当事者家族。お一人で色々なことを抱え込んでいらっしゃる方がお話を聞いていて分かりました。予定された時間より早く始めましたが、どれだけ時間があっても足りないという感じでした。いろいろ話を伺いましたが、易怒性のある当事者を持つ家族が当事者に対してどういう対応をしたのか、そういった経験をした家族の話を聞いてみたいと何度か繰り返された事が心に残りました。同じような経験をされた家族の方と話が出来る、そんな機会をつくることができないだろうかと考えさせられました。



☐ ☐ 愛知高次脳機能障害協議会 家族相談会のご案内 ☐ ☐

- ・名古屋市総合リハビリテーションセンター 1F 相談室 6
(10:30～12:30) 11/24 (火) 1/26 (火) 3/23 (火)

(以下の各会場 13:30～15:30)

- ・岡崎市友愛の家活動室 11/11 (水) 2/19 (金)
- ・春日井市基幹相談支援センター シャきょう相談室 12/11 (金)
- ・刈谷市社会教育センター503 研修室 1/28 (木)
- ・半田市中央公民館会議室 3/10 (水)
- ・NPO 法人高次脳機能障害友の会みずほ 4F 相談室 12/17 (木) 2/28 (日)

直面する性教育を考える

～Zoom 学習会～



8月30日(日)に全障研愛知支部主催の「あいち支部学習会 in Zoom」がありました。

日本福祉大学の伊藤修毅先生を講師にお招きして、その著書「ゼロから学ぶ 障害のある子ども・若者のセクシュアリティ」をテキストに学習を進め、グループ討議も行われました。定員50名の中、みずほからは8名（お年頃の当事者のお子さんを持つ家族会員）参加させていただきました。

Zoom機能を使っでの学習会参加は初めてでしたので、何もかもが手探り状態でした。幸いPCに長けている家族会のメンバーがいたり、自主的にZoom機能の使い方の学習を進めていた家族会のメンバーもいたりしたおかげで、何とか無事参加することができました。

さて、今回の学習会ですが、テキストを中心に講義があるので、事前に伊藤先生の執筆されている本を購入する必要があると、それを読んでからの参加でした。前半は伊藤先生の講義、そこでは4つの事例・実践の紹介があり、後半はその4つの事例のグループに分かれてグループ討議がなされ、その後討議報告・質疑・応答になりました。

今までは、性教育に関して自分の子どもに関わる部分の事しか考えていなかったのですが、今回、セクシュアリティ（性に関する様々な事項・・・意識・行動・能力・関心・表現など）という奥深い問題にも触れることができました。



～参加者から・・・～

Zoom について

Zoom という形式は移動することなく自宅にて参加でき、参加されている皆様とのグループディスカッションも密にならずにできるなど利点がたくさんありますよね。今後、このような形式の会議や講座もありだと思いました。



講座の内容について

性の話は声に出して家庭でも話しづらい内容のため講座という形で専門職の方から話が聴けたことは良かったです。できるだけ多くの当事者・家族の方にも聴いていただきたいと思いました。

当事者が障害を持つとそれ以降、同世代の仲間と関わりが希薄になってしまうことが多いです。また兄弟からも自然に教えてもらう機会がない場合もあるので、「性の正しい知識」をどのように伝えたらいいのか工夫が必要なのがよくわかりました。

異性との関わり方は健常者でもデリケートで難しいものだと思います。それが障害を持つことによって、より分かりにくいものになるのではないのでしょうか。自分を大切にするためにも、周りの人も大切にするためにも、コミュニケーションの取り方をまた一緒に学んでいけるといいなと思いました。

私は、「マスターベーション事例」についてのグループを選択しました。グループの人数は5名で、全員息子さんをお持ちのお母さま達でした。皆さんそれぞれ感じていることや疑問に思っていることなど意見を出し、それについて話し合いましたが、やはり、異性の身体の事は分からない部分もあり、性の話は今後も講演会などがあれば、お聞きしたいし、家族会などでも取り上げていくべき話題だと改めて感じる良い機会となりました。

グループ内では「親自身が学生の時にしっかりした性教育を受けていない」、「成人した息子に親が性に関しての事を話すのは、親も恥ずかしいし、子供も素直には聞かない」という意見が聞かれました。

そして、色々な意見が出る中で最終的には「今日のような講演に何回も親子で参加して、もっと気軽に相談出来る人や場所が増えると良いね」と皆の意見がまとまりました。

当事者の年齢が低くければ親でも話せるが、大人にはこちらも照れがあり話せないな。



「妊娠による退学事例」に参加

【テーマ】どうすれば「高校生らしいおつきあい」がわかってもらえるか？

先生：一般的には、自分が責任を持てるようになってから（卒業して働いてから）

自分を大事にして、他人も大事にする

学生(女子)：交際を禁止するのではなく、自己肯定感が持てるようにアプローチする

：たとえ失敗しても、うまくフォローできる人の存在が必要ではないか
学校での現状

：性教育の反対派はいないが、実際に授業に取り入れることは少ないらしい。家族からは反対意見も出てくる。

2018年文科省通知に、妊娠した生徒の対応については、様々な情報提供を行い、支援機関につながるような支援が必要とされていますが、現実には退学勧告されたり、退学処分になったり、人工妊娠中絶をする例も多いのではないかと思います。

心と身体を傷つけてしまう前に、年齢に見合った絵本や専門書などで性の意識づけをしておく必要性があると強く感じました。





今年度の初め、みずほではキッズプラスの担当者が中心となり、性に関する講演会を開催する企画がありました。そして今回の Zoom 学習会のように伊藤修毅先生を講師にお招きして、「ゼロから学ぶ 障害のある子ども・若者のセクシュアリティ」の演題で7月12日(日)に講演会を開催する予定でした。けれど、残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大防止のために中止！そんな経緯があったので、伊藤先生の Zoom 学習会が開催されると全障研あいち支部から連絡をいただいたときは、驚きました。

みずほのキッズプラスで、性に関する講演会を開催したいと考えたきっかけとなったのは、昨年11月に開催された「キッズネットワーク宿泊イベント in 愛知」のうちに 富山県高次脳機能障害支援センターの水和さんから「みずほさんのキッズプラスのメンバーの年齢を見ると、今、必要なのはこれから直面する性教育の事ではないでしょうか。」とアドバイスを受けたからでした。

伊藤先生は専門が障害児・者のセクシュアリティ教育、青年期教育です。講演も数多くこなされ、水和さんからその伊藤先生の名前を教えてくださいました。また、たまたま知り合いのお嬢さんが日本福祉大学で伊藤先生の教えを受けていたこともあり、その伝手を頼って直接伊藤先生と連絡を取ることができました。伊藤先生が講演を快諾してくださったので、打ち合わせをしながら講演会に向けて準備を進めていた矢先の新型コロナの感染拡大でした。

Zoom という手段があったとは・・・

時代は進化している～！というか、私が遅れている
のでしょうか・・・

このコロナウィルス騒ぎが無ければ、このような
Zoom で学習する機会もなかったわけですし、便利な機
能を使えるようになった自分としては、また新しい事
が1つ覚えられた！！という気持ちです。



(大澤)

働くなかまの集い

8/15(日) 名古屋リハにて「働くなかまの集い」を開催しました。

お盆であることや新型コロナの感染拡大を心配する当事者からの問い合わせもあり、参加の申し込みをされた方は前回に比べて少なかったです。当日の参加者は当事者4名、名古屋リハ2名、みずほの担当者3名でした。

まずは、各人の近況報告。その後はグループワークです。

近況報告の中で

短期的な仕事ばかりでなく、長期的な仕事が欲しい



といった声も聞かれました。

グループワークでは、その声をもとに「仕事をもらうためにはどうしたらよいか」という問題を議題として、皆で意見等出して話し合いました。



仕事は会社から与えられるもの。自分やるべきことをやっ
たうえで次の仕事を上司にもらう。環境を変える

記憶障害のある場合には記憶をたどることのできるメモを取る

上司に対して…報告することは大切。今の自分の現状を伝える。あいまいな部分は
判断してもらう。まずいことは真っ先に報告する

など、いろいろ意見やアドバイスがありましたが、仕事内容がそれぞれ違うので参考に
するには難しいところもあるのかと感じました。

その後緊急事態宣下での仕事についての話題も取り上げられました。勤務形態の変化を
経験された方もいました。

最後にこれからこの会を定期的に開催していくにあたっての運営方針についていろいろ
意見を出し合いました。

「年間計画を立てる テーマを決めて開催」

各種制度について/みずほと交流/体験談・・・等

「3か月に1度くらいの開催がいいのではないかな」

「できない場合には リモートを使ってやるのもありでは」



次回は、コロナの感染状況を見ながらになります。多くの人が、参加してくれることを
願っています。

(須田)